

令和3年3月25日

第二回運営委員会議事録

開催日時 第2回 3月9日(火) 18時30分～19時30分

出席者	運営委員	ひよこ保育園	小田中 清子
	みどりの会	会長	福盛田 正樹
		副会長	三上 和人
		副会長	前屋舗 哲也
	みどりの保育園	園長	高木 宏子
		主任保育士	小野 洋子
		事務長	高木 崇
		事務主任	前屋舗 由紀子
		進行	小田中 清子
		記録	前屋舗 由紀子

次 第

1. 開会
2. 運営委員長挨拶
3. 園長挨拶
4. 議題
  - (1) 年度末評価(成果と課題)
    - ①園経営・園運営について  
(園務分掌評価、保護者アンケート結果)
    - ②全体の保育について  
(行事評価、保育評価)
    - ③その他  
(苦情処理、ヒヤリハット・事項報告)
5. 来年度に向けて
6. その他
7. 閉会

## 1. 開会

(事務長) 只今より、令和2年度みどりの会 第二回運営委員会を開催いたします。  
開会の前に、本日、副会長の佐藤様はお仕事の都合で来られないという事でしたので、この8名で行います。

まず、運営委員長の小田中先生から一言頂戴したいと思います。

(小田中先生) 第二回の運営委員会という事で、顔を揃えたところでございます。第一回は昨年  
10月でした。その後の後半部分を、園長先生と事務局の皆さんからご報告をいただき、  
来年度に向けたみどりの保育園の方向性を確認しながら、たくさんのご意見を出してい  
ただく日ではないかと思えます。

開園1年目でありながら、非常にイレギュラーな年度でした。運営するにあたり、また  
保護者の皆様と一緒に進めていく中で、先生方も非常にご苦労があったのではないかと  
思えます。色々そういったお話も交えながら、和やかに、いい運営委員会にしたいと思  
います。ご協力お願い致します。

(事務長) 続きまして、園長先生より一言ご挨拶申し上げます。

(園長) 本日はお忙しい中、駆け付けてくださりありがとうございます。日頃より、保護者  
の方々の本当にあたたかいご理解とご協力があって、この1年を締めることが出来ると思  
っています。先ほど小田中先生が仰ったように、思い通りにならない難しい状況の中で、  
なんとか最大限に配慮をして出来る方法はないか探りながらここまでできました。これも  
保護者の方々のご協力がなければ、できないことがたくさんありました。保護者の方々の  
思いをいっぱい受け止めて、こういう状況だから、私たちでなんとかできることを考えて  
やるぞ！と、心が一つになった気持ちでいるところです。

本日は後期の運営の報告をいたしますが、職員も初めてのチームで、色々ともがきなが  
らここまでできました。子供たちの成長が何よりも感動であり、保護者の方々とそういうと  
ころを語りながら1年過ごせたことは本当に幸せなことだと思っています。

来年度に向けて、忌憚のないご意見をたくさんいただいて、よりよい園運営をしてい  
きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

(事務長) それでは早速、議事に移らせていただきます。議事の進行は、運営委員長様にお願  
いしたいと思います。小田中先生、宜しくお願い致します。

(小田中先生) 運営委員長が進行をするという規則ですので、未熟ではございますが進めさ  
せていただきます。

それでは早速、議題の4番(1)年度末評価(成果と課題)①園運営・園運営について、  
園長先生からご説明をお願い致します。

( 園 長 ) 資料をご覧ください。前期の報告でもありました通り、うちの園は園務分掌評価を自ら評価指標を掲げて意識をして取り組み、その取り組んだことを振り返り、自分でこのくらい頑張った、後半はこういうところを頑張るというのを、中間評価で見ていただきました。1月に面談と書いてありますが、昨年末に職員一人一人と面談をしました。中間評価であったように、今このような状況で、この年度末評価に書いてある通り、自分はこのように取り組んでいるというのを面談で明確にしています。これは12月までに取り組んだことの振り返りを書いたものですので、1月から3月に更にもっと改善できる点はないだろうか、ここは少し不足だったから取り組んでみようというところが見えるように書いております。各々が成果と課題を明確につかんで取り組んでいるという履歴がわかるように、中間評価と年度末評価を全職員分載せてあります。自分で目標を決めて一生懸命努力したという跡が見えるので、全職員で、この先生はこういうところを頑張っていたなど認め合える状況作りや、職員のチームワークを作る上でとても成果があったと思っています。細かいところはお覧になっていただければと思います、全員分載せました。

次は、本園の保育等に関する保護者アンケートを2月に行い、そのアンケート結果について保護者さんに公表する予定で作成しております。保護者の方々と子供たちの成長を喜び合えるように、保育評価と合わせながら、保護者の方々の評価を見ているところです。この結果を取り入れながら、保育のあり方や園運営について検討を行って次年度の改善点に向けて協議するところです。おうちの方々が関心を向けてくださり、回答率91.9%でした。私が経験してきた中で、すごく高い回答率になっていると思います、それだけでも嬉しく思っております。色々なご意見をいただきましたが、まずは教育目標の3つの柱に沿いながらおうちの方々にお子さんの様子を見ていただきましたし、裏面は園の運営についてご意見をいただきました。

みどりの保育園は研究を柱に取り組んでおまして、テーマは「子供がいきいきと遊び生活する環境を考えよう」です。今年度は何もない園庭から始まったので、子供たちが遊びこめるような環境を考えようということで研究に取り組みました。研究というのは、保育目標を実現するために、具体的に色々な姿を先生たちが取り上げながら、一人一人の子供たちが「やりたい」と主体的に思っ取り組む状況を作る環境はどうあったらいいのか、というところをみんなで一生懸命考えました。保護者さんのアンケート結果を見て、その成果が表れているなどと思い嬉しく見させていただきました。また、忌憚のないご意見をたくさんいただいたので、殆どそのまま載せています。質問事項もありますが、保育と行事について、このようなコロナの状況の中でこんな風に思っくださったんだと思い、とても嬉しく、励みになりました。このアンケートについてのご意見もいただきましたので、このような貴重な意見をいただいて、来年度の保育や運営の改善に向け、しっかりとみんなで検討していきたいと思っています。ゆっくりとご覧いただければと思います。

それから、つい先日栄養士が行った食事の調査アンケートの結果があります。みどりの保育園は食育にも力を入れておまして、このアンケートに沿って集計をしましたところ、親さんがおうちでもすごく食事に工夫をし、色々なアイデアを出しながらやっているこ

とが分かりました。給食に対しても、大変関心を向けてくださり、子供とも会話している様子が伝わってきました。給食へのとてもあたたかい言葉もいただいて、ありがたいと思っています。

みどりの保育園の給食では、子供たちの身長・体重を基に年に2回栄養価を見直しています。「この味付けなら苦手な野菜も食べられるかな」「このメニューはよく食べるので苦手な副菜と合わせてみようかな」というように、献立を立てる上でも参考になるアンケートでした。

今回このアンケートを見て、子供たちに今何が必要なのか、この食品はご家庭で摂りにくいのであれば、園でこのように取り入れてみましたという情報提供になるのではないかと、給食の作成に活かせるアンケートになりました。

そしてもう一つ、私が感動しているのは、保育の一環として生活リズムを考慮した食事時間の調整や、食品の切り方を子供たち一人一人に合わせ、栄養士と保育士が連携を一生懸命図ってくださっているということです。組織の一員として、子供たちのためにどういった食事がいいのか、どのような方法で食事に向かえばいいのか、栄養士と保育士が研究をして深めているところが、私自身も大変勉強になりました。

このアンケート結果も今週中に保護者さんにお渡ししたいと考えています。以上のところで宜しくお願い致します。

(小田中先生) それでは、②全体の保育（行事評価、保育評価）について、小野先生お願いします。

(主任保育士) 全体計画の保育評価をご覧ください。年度末になってしまいましたが、こちらは今年度の4～9月末までのⅠ期Ⅱ期の評価をまとめたものを載せています。全体の計画からおりた各学年の評価指標に沿って、担当クラスの子供の姿から環境や援助を振り返り評価しました。そのことにより、子供たちがどのようなことに心を動かし、学んでいったのか、次にどのようなことに意欲をもち関わっていったかなど、その時の心の動きなどを読み取ることに繋がったと思います。

また、学年のミーティングで話し合うことで、他の職員はどう捉えているのか、こういう捉え方もあるのかと多角的に捉える目を養い、子供理解にもつながりました。今どのような環境が必要か、何を大切にしていこうか等を自分たちの環境や援助の振り返り、見直すことに繋がっていった保育評価になりました。保育評価を行うことで、子供たちの育ちの共有や保育の喜び、楽しさを共感でき、次の計画に活かすことに繋がったと思います。

今、Ⅲ期Ⅳ期の保育評価を行っているところです。この保育評価を通じて次年度の保育計画につなげていきたいと考えています。保育評価についてはこのように考えております。

次は行事評価です。こちらはⅢ期Ⅳ期の行事評価を載せています。コロナ禍での行事開催を職員全体で話し合い、感染予防対策をとりながらの計画となりました。人数制限や時間短縮をしながらでしたが、後期は年度初めに計画していた各行事を中止することな

く開催することが出来ました。一つ一つの行事を計画することで、何を育てたいか、育てたいものに向かってどのような環境や援助が必要か、職員間で話し合い取り組んできました。それぞれの職員が、行事までの子供の育ちの過程が大事であるということ意識して育ててきていることが、評価から読み取ることが出来ました。

また、子供たちも保護者さんも一つ一つの行事を楽しみにし、経験できたことを喜び、行事後にお会いした時や連絡帳で嬉しいコメントをたくさんいただきました。そのことが職員も励みとなり、評価を行いながら次年度の計画につなげていきたいと思いました。

このような評価を行ったことで学んだことがたくさんあり、これを生かしていきたいと思っております。以上です。

(小田中先生) ありがとうございます。たくさん資料を丁寧に記録していただいています。これをしっかり読み込んで、ご意見をいただくのはかなり時間が必要かなと思います。今、小野先生から全体の思いや先生方の保育に向かう姿勢というのを教えていただきましたので、出来ればこの中から何か一つ具体的に一つ取り上げていただけると、こういう思いをもって保育をしているということが保護者の皆様もより分かりやすいかなと思います。

(主任保育士) 私がこれを見ていて感じたのは、環境というのはすごく大切だということです。先生たちの意図する環境というところで、先生たちが子供たちをこう育てたいという願いをこめながら色々な環境を整えていきました。

「全体の計画の保育評価」の資料にあります、5歳児の「げんきな子」「①戸外で友達と一緒にのびのび体を動かして遊ぶ」という部分になります。この園は新設園ということで、園庭に何も無い状態でスタートしました。先生方は子供たちの心の健康と体の健康のために、いっぱい遊んで体を動かし、ご飯をもりもり食べてお昼寝をして1日保育園で過ごすという生活リズムをつくることや、戸外でたっぷり遊べる時間を設けようということ意識しました。外に遊具が無い時も、職員がまず体を動かし、子供たちがその姿を見て「鬼ごっこをしよう」と言って鬼ごっこが始まった、ということが書かれていました。保育者も仲間になって一緒に走ることで、子供たちの体を動かして遊びたいということにつながっていき、その姿を見て3歳児や4歳児も追いかける、坂を上って下るということに繋がりました。

環境を通して体を動かしながら、子供の心も動いていったと思います。5歳児から始まったことが、自然と4歳児から1歳児へというように広まっていきました。体を動かして遊ぶことに重点を置き、動かされているのではなく、子供たち自ら体を動かしていることにつながったと、振り返りの中から読み取りました。

(小田中先生) 保育者が楽しむ姿があると、子供たちも「なんだろう」とワクワクしてのってくるところがありますよね。体も機能的に、年齢別に、どこが確かな部分になっているかを確認しながら見たりも出来ますね。先生方がいきいきと、先生方がまず走って駆け回っているというのがよく分かりました。

( 園 長 ) 行事評価の節分集会についてお話しさせてください。行事というのは、その当日、その日だけの評価ではなく、行事に向かうまでの1週間～2週間の期間に、どのように子供たちの心を育てていくかということが大事になってきます。行事というのは心の節目になって、大きく成長していくという捉えでやってきています。

この節分集会の日は、5歳児さんと4歳児さんが見事だったんです。なまはげのような、本物の鬼のような怖い鬼だったので、こんな怖い鬼を登場させてもいいものかと少し心配していたのですが、子供たちが小さい0歳～3歳児さんたちを俺たちが守る！という気持ちになっていました。鬼が登場すると、自ら必死になって向かっていったんです。その姿を見ただけで、先生たちは泣けてきました。こんなにも、小さい子供たちを守ろうという気持ちになるんだなということ、鬼が逃げて行ってバンザイと大喜びし、「俺たちが鬼を追い出したから逃げたよ」と小さい組に知らせに行くんです。そうすると、小さい組の子が「ありがとう！ありがとう！退治してくれてありがとう！」とお兄さんお姉さんに感謝をして、年長の俺たちが小さい子供たちを守るという気持ち、お兄さんお姉さんに憧れる小さい子供たちの気持ちなど大きな成長が見えました。

ホールでの集会の時に、私が素話をしました。ちょっと長いお話でしたが、2歳児以上の子供たちがびくともせず、私の顔をじっと見て話を聞くんです。私も子供たちに引き付けられて興奮状態で、10分くらいでと思っていた話が15分くらいになってしまいました。そのくらいしっかりお話を聞きたい、最後まで聞きたいという2歳児以上の子供たちの姿を見て、これは急に育つものではなく、毎日先生方が丁寧に「お話を最後まで聞きたい」「お話ってこんなに楽しんだ」という気持ちを育ててきたんだと、様々な成長が見られたと、先生方ともいっぱい話が出来ました。

本当は、この行事は親さんにもたくさん参加できるように考えてはいたのですが、コロナの関係でなかなか参加していただくことができませんでした。なんとか臨場感をお伝えしたくて、その日に園だよりを出しました。「家に帰ってきて興奮して話しました」「もう鬼は退治したから、家には来ないと言っていました」「僕の泣き虫鬼を追い出したから」そういう会話を親さんもたくさんしてくださり、親さんと一緒に子どもの成長を感じ取る機会を逃さないようにしなくてはいけないという思いで過ごした行事でした。

そして、丁寧な行事の組み立て方は大事だと勉強させていただきました。給食も鬼のメニューで、「鬼を食べた！」と子供たちは大喜びで、そういう栄養士さんたちのアイデアもすごくいいなと思いました。

(小田中先生) ありがとうございます。

それでは次に、③その他に移ります。苦情処理に関して小野先生からお願い致します。

(主任保育士) 苦情処理ということで、第一回の運営員会の際に、小田中先生に苦情処理というのは親御さんから「こうしてほしい」という願いだけでなく、分からないことを質問されたこともすべて記録で残しておくことで次に生かされる、ということを教えていただいたのが

心に残りました。お便りできたものもコピーをとり、お母さんはどう思っているのか等、親御さんの気持ちもくみ取りながら話し合い、職員が共通理解することにつながっていくことができました。その記録が宝物のようにたくさんファイルに綴じてあります。小田中先生から教えていただいたお陰でたくさん記録が残っています。苦情という悪い方へ捉えがちでしたが、すべてを受け止めるというところですごく勉強になりました。

(事務長) ヒヤリハット・事故報告についてご報告させていただきます。前回の運営委員会の際には文書化できておらず、皆様から気付く目を養うことが大事、とにかく出すことが大事というお話を頂きました。それを議事録という形で職員全員で回覧しながら職員会議等でもヒヤリハットの必要性等を話してきました。

1年間終わりました、振り返りも含めてですがヒヤリハットを約30件出していただいております。内容としては、大黒柱にヒビが入り、手を入れたら危ないという報告から、埋めることで恒久的な対策がとれたもの。園庭に石や指サックが落ちていたという報告から、毎朝の見回りを今以上に強化することで解決としたもの。それから消防訓練の際に、にじ組側のスピーカーの音が聞こえにくく、実際に災害があった場合に危ないのではないかというヒヤリハット。こちらはスピーカーの増設を検討しており、将来的な設備投資という形で解決に向けて動いているものなどがあります。

職員の方から自主的に30件近く報告をいただいたのは成長なのかなと思います。年間を通して30件ですので、私個人としては少々少ないかなと感じます。実際は先生たちの間で話をして解決してしまっているもの、文書化できていないものが多々あるかとは思いますが、現状30件近くが提出されたということが成長ではありますし、そこから何か重大事故に繋がり、親御さんから苦情が入ったという報告はありませんので、適正に対処ができていると思っております。

現在、ヒヤリハット・事故報告とファイルをもうけて文書化して綴っておりますし、クラウド上でも報告を残すということも続けております。何か重大な事故・苦情があった場合にはご報告は差し上げますが、現時点では適正に対処ができているということでご報告させていただきます。以上です。

(小田中先生) ①園経営・園運営についてから③その他のところまで説明をしていただきました。この部分に関して、皆さんの方からご意見ご質問をいただければと思います。

(前屋舗副会長) 行事評価なんですけど、行事がたくさんありますが他の保育園でも大体このくらい行事があるんですか？

(主任保育士) 運動会や発表会などの大きな行事は分かりやすいと思いますが、この行事評価の中にはクッキングも入れているのですごくたくさんに見えるかと思えます。食育に力を入れているということで、おにぎりパーティがあったり、焼き芋会があったりとクッキングは多い方かと思えますが、遠足やクリスマス会などは、どの園でも行われている行事だと思

います。

(前屋舗副会長) たくさん行事をしていただくのはすごくありがたいんですが、先生たちが大変で申し訳ないという気持ちもあります。

(園長) 特別なことをするわけではないです。焼き芋会の時にも親御さんにたくさんご協力をいただいて、是非アンケートをと思ったのですが、連絡帳にたくさん書いてきてくださり、それをコピーしてみんなで回覧しました。

今年はコロナ禍でなかなか親御さんと一緒に行事ができず、にこにこ先生体験も年長さんが1回だけという状況でしたが、会社とも相談してDVDを作成し、なるべく身近に子供たちの姿が見られるようにと、そういうところに予算を使わせていただきました。コロナの状況なので、また来年度はどのような状況になるか分かりませんが、ご相談をしたいと思っています。

(前屋舗副会長) アンケートのことですが、捉え方が分からないので教えていただきたいです。子育てに関する悩みは何がありますか、というところで「親子関係」と書かれている方もいますが、何か気になるご家族にはアフターフォローをされるんですか。

(園長) こういう傾向がある、こういうことで悩んでいらっしゃるな、というのは連絡帳や送迎の時に話しをするとなんとなく分かります。こうやって数値化したものを親御さんが見ることで、「悩んでいるのは自分だけじゃない」と思ってくだされればいいなという思いもあって、公表することにしました。

(前屋舗副会長) 何がいいというのはないと思いますが、あまりこういうアンケートを見る機会が今までなかったので、教えていただきありがとうございます。

(小田中先生) それでは会長の福盛田さんお願い致します。

(福盛田会長) 行事をたくさんやっていただいて、私なんかはあまり考えず「結構行事があるな」と思っていました、すごく丁寧にさせていただいてるのがありがたいと思います。

先ほど園長先生から節分のお話がありましたが、節分の日には家に子どもが帰ってきて「鬼が憎たらしい」という感じで興奮して伝えてきました。そんな風に行事をしていただいて本当にありがたいと思います。

あとは、第一回目の運営委員会の議事録やホームページなども、しっかりやっていただいているなどすごく感心しているところです。

(小田中先生) それでは三上さん、お願い致します。



(三上副会長) 1年を振り返って、コロナ禍の自粛ムードの中で色々取りやめる園も多かったようです。自粛という形でやらないことはすごく簡単だと思いますが、そこを実現させるという方向で尽力していただいたことは感謝しています。

子供の頃の思い出は、楽しければ楽しいほど覚えているものだと思うので、貴重な発達をする時期に思い出を作るとは、子供たちにとって財産になると思うので、厳しい中でも色々としていただき感謝しています。

(小田中先生) 保護者の皆様からは感謝でいっぱいというご意見をいただいています。

(前屋舗副会長) 来年は何人くらいになるんですか？

(園長) 今現在が63名で、お父さんお母さんの仕事のために転勤が決まり、3月に3名退園になります。4月に入るお子さんが18名いますので、78名です。来年度、年長さんは1人かなと思っていましたが、4人になることになりました。

(小田中先生) 仲間が増えたということですね。

(園長) 今年の3人の絆も良かったですね。

(福盛田会長) 最初は3人だな、女の子一人だからどうかなと思っていましたが、それはそれで良かったなと思いました。保育園に子どもを連れて来て私が帰る時、園庭を見ると小さい子と手をつないでいて、すごくいいなと思って見ていました。3・4・5歳児の距離が近くていいですね。大きい園だと、各々それぞれでという感じだと思いますが。

(園長) 同じ部屋で過ごした仲間ですね。

(小田中先生) あとはよろしいでしょうか。園長先生の方から何かありましたらお願いします。

(園長) 本来であれば、今回の運営委員会で来年度の事業計画を皆さんにご提案をしなければならなかったのですが、コロナ禍でどのように行事をもっていこうかと思った時に、PTAの役員さんに一度ご相談をして決定したいと思いました。29日に最終の役員会がありますので、その時にご相談したことをご報告という形で運営委員会にあげさせていただこうと思います。

新入園児の面談の時にも「こういう状況なので入園式はなしの方向で考えている」とお話しました。お花見遠足の後にPTA総会をしたらいいのかなとも思いましたが、コロナが収束に向かうかどうかは難しいので、役員会の時にご意見いただきたいと思っています。

(小田中先生) 来年度の具体的な部分については、役員会を経てということですね。

( 園 長 ) 今年の卒園文集を考えた時に、3人だけの卒園文集もいいかなと思って計画していたのですが、せっかくの開園記念の1年なので、全員の写真とコメントを親御さんからもらって開園記念の文集にいたしました。今、三稿目に入っているところです。親御さんのメッセージと子供たちの写真が素敵で、先生たちは歓声を上げていました。卒園式・修了式の前には皆さんにお届けしようと思っています。たくさんご協力いただいて感謝しています。ありがとうございます。

(小田中先生) では、④番の来年度に向けてをお願い致します。

( 園 長 ) 皆さんからたくさんご意見をいただき、連絡帳にもたくさん書いて下さるので、そういうところを私たちは励みにしながら、皆さんのご意見を活かせるように、私たちが今まで一生懸命チームで頑張ってきた保育をより良くするためにどうしたらいいかという検討を、これからしていこうと思います。今日の運営委員会のお話を職員みんなに伝えながら、また来年より良い保育・運営をしていきたいと思っています。まだ何日かありますので、どうぞよろしくお願い致します。

(小田中先生) では5番のその他ですが、事務局の方から何かありますか。

( 園 長 ) 第一回の運営委員会で、ヒヤリハットをみんなで気付いて意識する事の大切さを教わってから、なかなか紙面にはならなかったですが、「これもヒヤリハットだよ」と、いっぱい話し合えるようになり、それを極力紙面に残すように自らしてくれました。そういう小さな気づきをみんなで共有し、気を付けていくということが、すごく後半大事に思えました。運営委員会で学ぶという事は大事だなと思いました。これからもぜひ宜しくお願いします。

(小田中先生) それでは閉会にあたって一言だけ宜しいでしょうか。今年1年大変な中でしたが、保育園には事務の先生や給食の先生、色んな職種の先生がいますが、職員の皆さんと保護者さんが一体となり、みどりの保育園さんが理念に掲げていることに向かって丁寧に保育していることをすごく感じました。

振り返れば私もそうだったんですが、保育園というのはすごく忙しくて、無い時間をフルに活用し、なおかつ丁寧に振り返るといのはできそうでできないんですよね。無い時間の中でもきちんと丁寧に、ひとつひとつ考えたり、次へと結び付けたり、一体となってやってらっしゃるのをすごく感じる事が出来ました。

第一回の運営委員会でお話が出たことをきちんと取り入れていただいていたいました。事務長さんがヒヤリハットや事項報告をまとめるとなると仕事がひとつ増えるわけですが、すぐ対応して下さっているなと思います。そういうところに気が付くことができるようになると、保育もいい方向に向かい、子供たちも安心できると思います。

みどりの保育園さんが目指している「地域に広げる」というところは、コロナ禍を過ぎてから活発に取り組むことができるのかなと思います。今年度は初めの一步のところ、皆さんが全力でご努力されたことを伺い、保護者さんからの感謝の言葉もたくさんあり、すごくいい方向に進まれているんだなとよく理解出来ました。また来年度に向けて、皆さん一致団結をして、先生も子供も楽しんで進んでいただければいいなと思います。

うちのひよこ保育園は0歳児から2歳児までの園なんですが、うちの園からのみどりの保育園さんに行きたいというお子さんがいます。まったく違う地域なんですが、希望して入ることになっています。そここのところも宜しく願いますということも付け加えながら、宜しく願います。

また何か応援できることがありましたら、運営員会の中でお話をみなさんと一緒に出来ればと思っています。

では、本日の令和2年度 みどりの会 第二回運営委員会を、これもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。